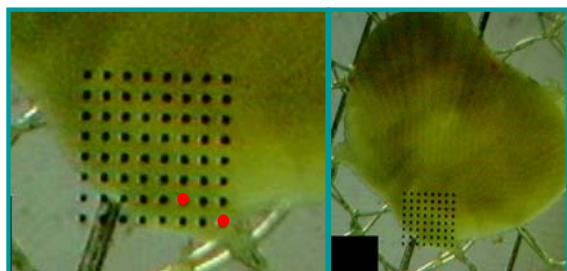


### 急性実験（脊髄・扁桃体 スライス）

#### 脊髄スライスからの誘発応答



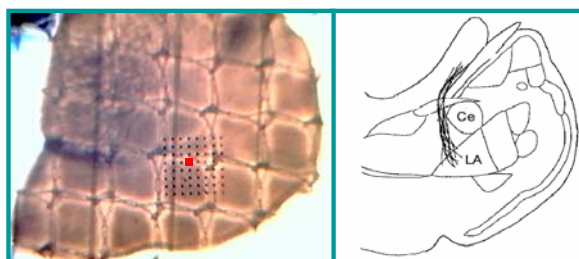
(左図)MEDプローブに置かれたラット脊髄スライス。後角(dorsal horn)が中心になるように配置してある。後根(dorsal root)の付け根部分にある2つの電極(赤色)にバイポーラ刺激を与えた。

使用プローブ:  
MED-P210A; 100  $\mu$ m間隔



(右図)2点によるバイポーラ刺激で誘発された細胞外電位。

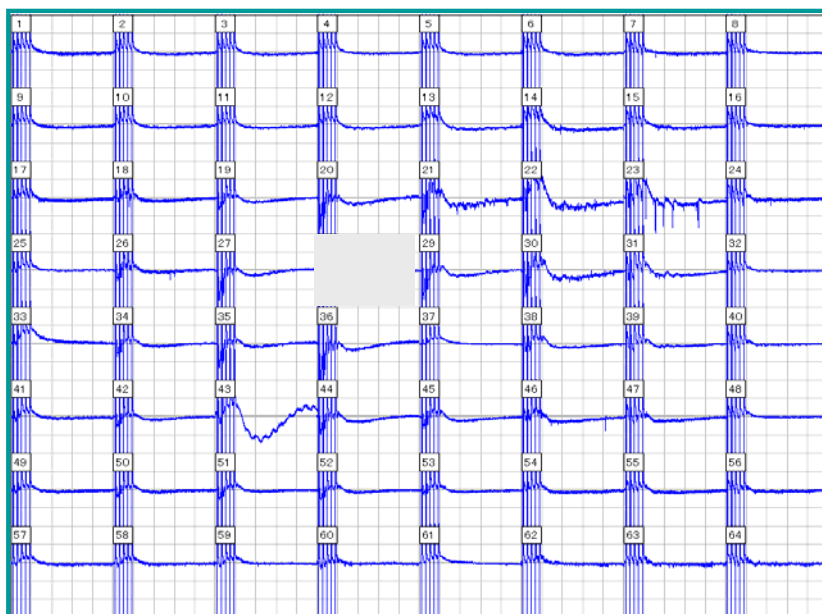
#### 扁桃体スライスからの誘発応答



(上図)MEDプローブ上に置かれたラット扁桃体スライス。外側扁桃核(LA)をカバーするように配置されている。

使用プローブ:  
MED-P515A; 150  $\mu$ m間隔

(右図)LA領域で観測された誘発電位。赤色で示した電極から頻回刺激を与えて誘発させた応答。尚、ここには示していないが、自発活動も観測された



実験の内容によっては対応できない場合もあります。具体的なご要望については弊社にお尋ね下さい。製品の定格及びデザインは改善等のため予告無く変更する場合があります。カタログ掲載のデータ・グラフ等は代表例を示しており、保証できるものではありません。カタログ記載内容は2009年10月1日現在のものです。製品の色は印刷物ですので、実際の色と若干異なる場合があります。